

# 学生×生活 ~ Option of The Students Life Style ~

大学に通う多くの学生が一人暮らしという最小単位で生活を行っている。しかし、学生の生活空間である学生アパートは画一化したものとなり、同じハコの居室が並んでいるだけでしかない。そこには居室の中での最小単位のコミュニティしか存在していない。このことは安く、よりよいものを手に入れたという学生のニーズには合うのかもしれない。だが、それと引き換えに学生の生活空間における「選択性」というものはなくなり、コミュニティというものが外に分散してしまっているのも確かである。

様々な生活styleを持ち、様々な生活cycleを持っているのが学生である。そのような学生がいるからこそ生活空間には「選択性」というものが不可欠ではないのか。

## 集合住宅=集まって住むこと。

ひと昔前の学生アパートは大家制度によりアパートの中に多くのコミュニティが存在していた。しかし、現在、ほとんどのアパートにおいて大家制度はなくなりそのようなコミュニティはもはや学生の生活空間の中に存在しなくなっている。

今や学生のコミュニティは大学の小さな部分にしか存在していないのではないだろうか。大学というのは学生生活の一部ではあるが、それがすべてではない。“学ぶ、遊ぶ、暮らす”すべてが学生生活の一部である。

学生の生活空間を通して学生の存在を再び考えていく。それが本計画である。



400703 TATSUHIITO IKEYA



## Program



敷地割によって自然にできたクルドサク型の地区。住環境としては国道23号の存在を感じず奥に入り込み静かで安全だと言える。しかし、国道23号沿いの商業機能は無造作に配置され、学生アパートもまた空地に建てられていく一方である。



そこで、一般住宅と現在この地区に存在する街路を残し、新たにRoad Side Shopと学生のアパートを計画する。

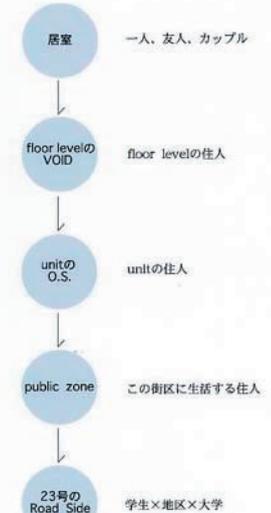
路地は現在の静かな住環境を成立させていると同時に、単位として小さなまとまりをつくり出すことのできる空間である。



街路を含みこの地区のpublic zoneを計画し、そこに取り付くように、そして街路、一般住宅と関係づけて学生アパートを計画する。

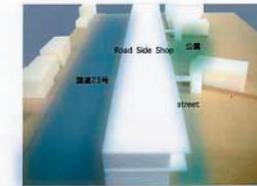
そして、23号沿いのRoad Side Shopは計画敷地の特性から商業機能の他、大学機能を挿入する。そこは学生の新たな生活空間として存在する。

private



public

このようにコミュニティの単位を作り出し、様々な「選択性」を与える。



### Road Side Shop

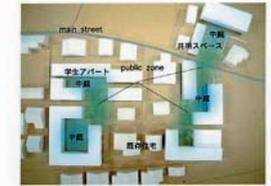
国道23号は三重県を南北に繋ぐ生活道路である。そのため車の交通量が非常に多い。そこでRoad Side Shopのボリュームを使って人と車の動線を分離させた。

23号側の表層としては、車の時間軸に合わせて大きなガラスのショーケースを置く。これは広告塔の役割を果たす。

車を外で処理することによって従来のRoad Side Shopのような短時間の滞在というイメージが無くなり、地域住民・学生のための一つの通りとなる。

### 文化性と商業性

Road Side Shopを文化性と商業性に分ける。文化性は大学機能から成り立ち、学生が媒体となって地域と大学を結ぶ空間となる。商業性は学生が社会と接点を持つ空間となる。



### 住宅地

まず街路を挟んで地区のpublic zoneを計画し、それにくり抜かれる形で学生アパートを囲み型で配置する。中庭とpublic zoneとの空間の質を変えるために中庭を1m割り下げる。そのため1階と2.3階では住環境が異なる。そこで1階をfree spaceとして扱うことにより中庭はこのアパートで生活する学生のprivate zoneとなる。

### main street

路地のmainとなる通りを大学まで拡張し、大学の第3の入口とする。そのmain street沿いのアパートには地域住民も使える共用スペースを付属させる。

### VOID

周辺住戸との関係を考えてVOIDをそれぞれのフロアレベルにつくる。ここは学生の留まる空間となり、中庭の動的な空間ではなく、中庭と街路を視界的に繋ぐ静的な空間となる。



S=1/150 0 1 3 6 15M

Unit Plan S=1/150

public空間とprivate空間の存在

現在の学生アパートは空いた敷地に無作為に建設されている。そのため学生の生活は居室という最小単位の中でしか存在していない。

private空間としての居室  
学生の居室への要求は様々である。これらの要求に答えるため多くの居室パターンを用意した。

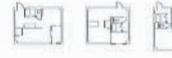
安き重視タイプ



one roomタイプ



two roomタイプ



group homeタイプ



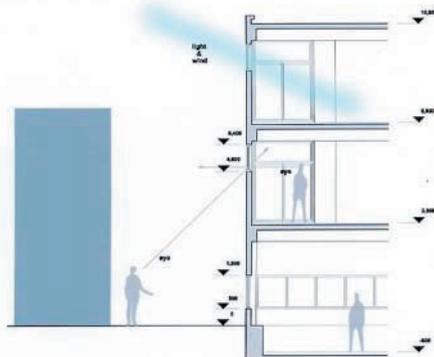
public空間としての街路・広場  
計画敷地には公園機能としてのO.S.がないため駐車場で遊ぶ子供が目につく。そこで街路を含めたO.S.をpublic zoneと定義し、作り取り付くように学生アパートを計画する。

建ぺい率90%、容積率200%という現状を保ちながらこの地区の新たな生活スペースを築き上げていく。



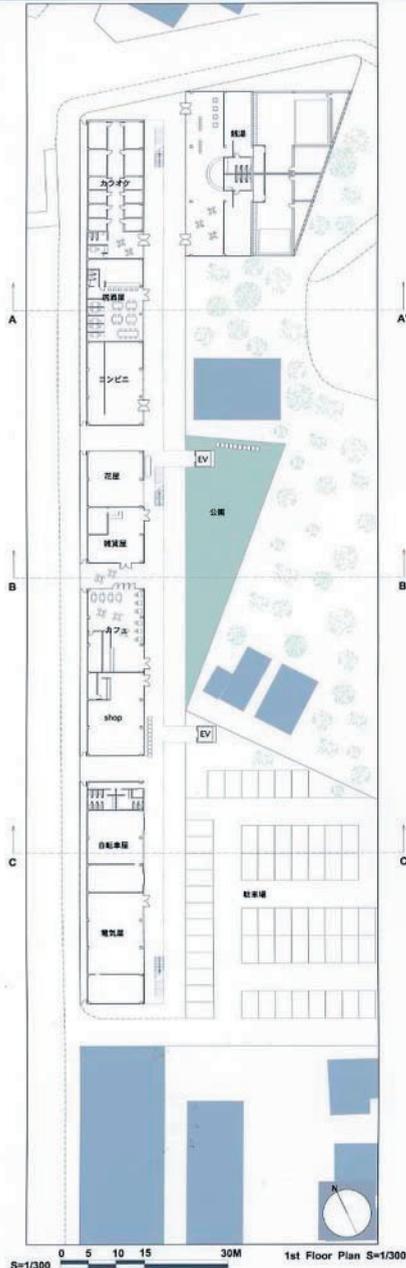
アパートのテラスは幅が1m程と狭くモノを干すという行為を行うための空間ではない。

ここでは、テラスを第2、第3の空間として利用できるよう、リセト・バルコニーを採用し、エントランスと連続するようにする。



Site1 用途：商業施設

学生×生活 ~Option of The Students Life Style~  
 学生 池谷 辰仁

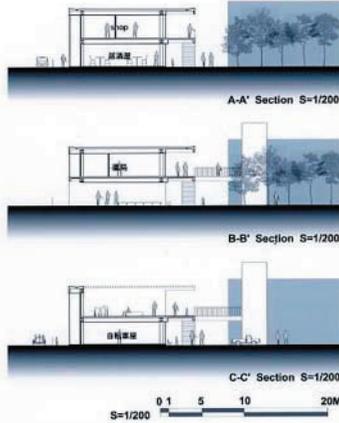


学生の社会との接点

入学して4年も経てば大半の学生が社会の一員となる。しかし、今現在、学生の社会との接点はバイトくらいではないだろうか。Road Side Shopという機能の移り変わりの早い商業施設。ここは学生がバイトをしたり。又、空間が空いたとき自らの意志で多くの学生が集まり運営・管理を行いながら社会と接点を持つことのできる空間となる。

地域のための商業機能

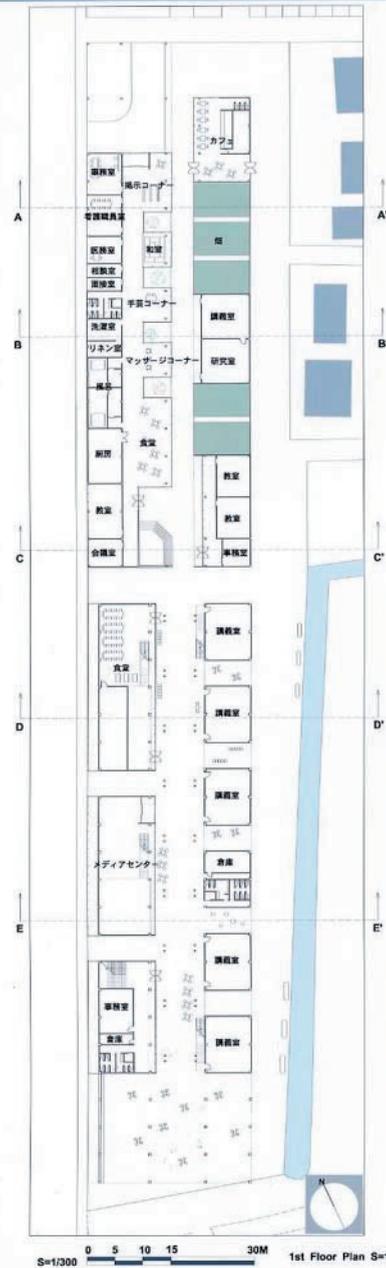
三重県を南北に繋ぐ国道23号。広く見ればただの通過道路ではないが地域の視点から見ればこの道路は主要な生活道路である。ここに車で来る人のための大型商業施設が必要なのだろうか。必要なのは地域住民の生活をよりよいものとする空間なのではないだろうか。Road Side Shopを住民のための商業施設として扱いたい。ここに車と歩行空間を切り離す意味があると思う。



Road Side Shop

Site2 用途：大学施設

学生×生活 ~Option of The Students Life Style~  
 学生 池谷 辰仁

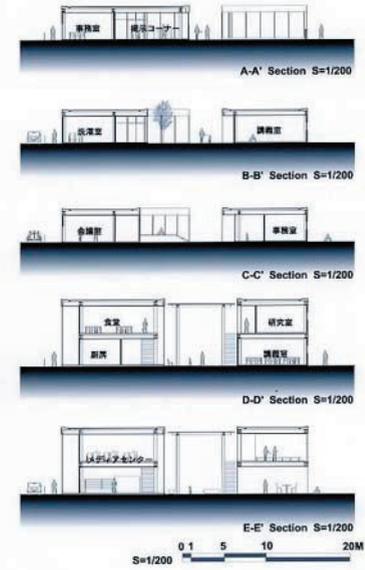


大学機能の複合化

現在の大学は個々の専門性は高いが、それぞれが隔離されているためだけの専門性にとどまっている。そのため法人化になり地域・企業・自治体に対して開かれた大学を目指したとしても個々の資源しか還元することができないのではないだろうか。そこで、大学も地域コミュニティもメンバーとして大学の専門性を複合化し、知識を統合することでよりよい資源が還元できるはずである。ここでは、学生・地域・大学が接点を持つ。

Collaboration

「大学」というスポンサー管理の下、教育学部、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部のそれぞれが行っている研究を実践的、又、講座によって地域に還元する。看護という領域が一歩地域と結びつきやすい。そこで核機能としてデイサービスを入れる。その他に、農業を挿入することでさまざまな分野のノウハウが集まり技術を高めることができる。

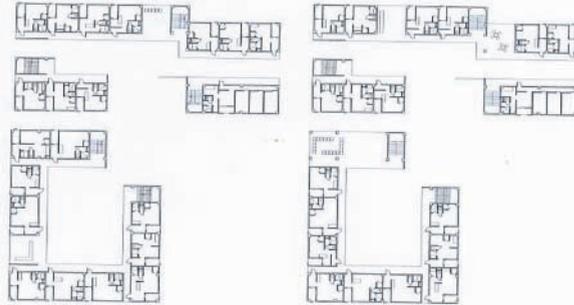


デイサービス外部

Site3

用途：学生アパート（居室数 54室）

学生×生活 -Option of The Students Life Style-  
CHUNIKUO SHUN



2nd Floor Plan S=1/300

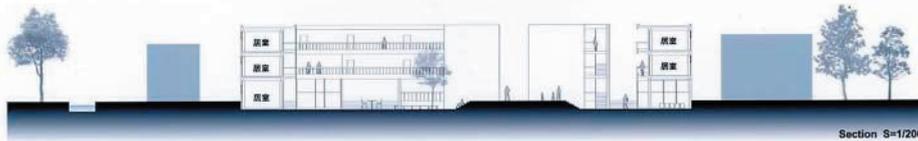
3rd Floor Plan S=1/300

1st Floor Plan S=1/300



学生のための共用スペース

この敷地の学生アパートは一般住宅に囲まれているため学生や地域住民のprivateを確保するためあえて一般住宅に閉ざした形態にした。  
ここには、地域住民とは接点を持たないが学生同士の接点を望む学生達が生活をする。  
学生のための共用スペースでは、学生達が地域住民に遠慮せずには遊びたい、又、一緒にテスト勉強したり、イベントを開いたり、ここで生活をする学生によって様々なことが行われるだろう。



Section S=1/200



South Elevation S=1/200

South Elevation S=1/200

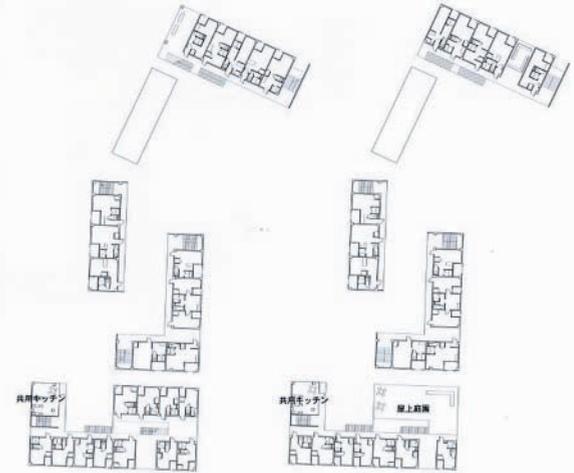


中庭

Site4

用途：学生アパート（居室数 61室）

学生×生活 -Option of The Students Life Style-  
CHUNIKUO SHUN



2nd Floor Plan S=1/300

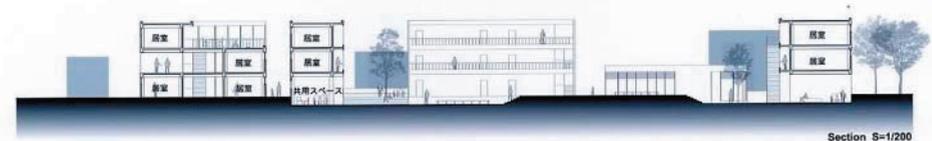
3rd Floor Plan S=1/300

1st Floor Plan S=1/300

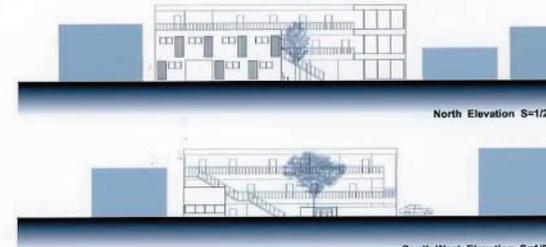


main street沿いの共用スペース1（メディアスペース）

この敷地の学生アパートはアパート自体は閉ざされているが共用スペースをmain streetに出すことで学生と地域住民とが関係を持てるように配置した。この共用スペースは学生が大学での活動を展示し、地域住民に大学という存在、学生という存在を再認識する空間である。学生同士が他の学部の活動を理解するきっかけにもなる。



Section S=1/200



North Elevation S=1/200

South-West Elevation S=1/200



中庭

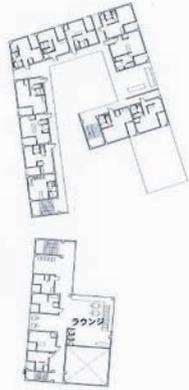
Site5

用途：学生アパート（居室数 38室）

学生×生活 ～Option of The Students Life Style～  
400703 池谷辰仁



1st Floor Plan S=1/300



2nd Floor Plan S=1/300



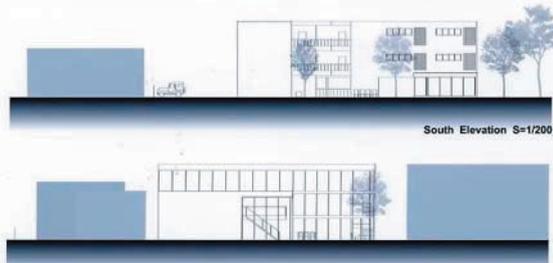
3rd Floor Plan S=1/300

main street沿いの共用スペース2 (大学自治会)

学生は大学自治会の活動を知らないのが現状である。それは、自治会の活動が内だけの活動にとどまっているからである。大学を運営しているのは自治会だけでなく学生全員である。その代表者として自治会が存在するためにはあらゆる学生が生活をしている空間にあるべきではないだろうか。そうすることで個性ある大学は生まれるのである。



Section S=1/200



South Elevation S=1/200

East Elevation S=1/200



public zone

Site6

用途：学生アパート（居室数 30室）

学生×生活 ～Option of The Students Life Style～  
400703 池谷辰仁



1st floor Plan S=1/300



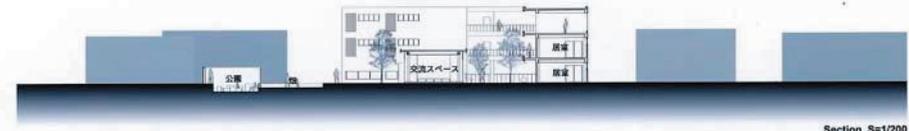
2nd Floor Plan S=1/300



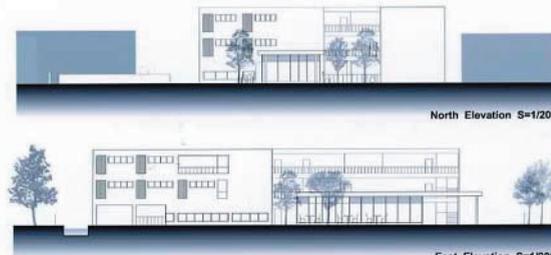
3rd Floor Plan S=1/300

main street沿いの共用スペース3 (交流スペース、畑)

この地区における家庭菜園場と東屋を設け、その前には地区の交流スペースを学生アパートに付属するように計画した。ここは、学生もこの地区に住む1人の住民として使用することができる。これは、アパートに付属している反面、public zoneに存在している。今まで計画してきた共用スペースとは違い、地域色の強いものとした。生活styleの違う学生と一般住民、ここでは、すべての人がこの地区で生活する「住民」として共に活動を行い、農作物の収穫という喜びを分かち合う。



Section S=1/200



North Elevation S=1/200

East Elevation S=1/200



中庭